

第 25 回 日本福祉のまちづくり学会全国大会（高知オンライン）開催報告

原 利明

鹿島建設（株）建築設計本部 / （一社）日本福祉のまちづくり学会理事・関東甲信越支部長

1. 開催概要

第 25 回日本福祉のまちづくり学会全国大会（高知オンライン）は、2022 年 9 月 1 日（木曜日）～9 月 2 日（金曜日）にオンラインにて開催された。一般研究発表、特定課題研究発表、公開シンポジウム、公開研究会、学会賞授与式が行われ、オンラインにもかかわらず、170 名の方に参加いただいた。

2020 年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックにともない、2020 年度、2021 年度と 2 年にわたりオンライン開催が余儀なくされた。今年度こそは、高知大学で対面開催を目指し、担当の中国・四国支部（坂本淳支部長・高知大学）では準備を進めてきた。しかし、新種株による再拡大により、2022 年 3 月の理事会にて、対面開催を断念した。

2. 研究発表会

本学会の全国大会では、一般研究発表（口頭発表）と特定課題研究発表とポスター発表の 3 分野があるが、今年度もオンライン開催のため、ポスター発表の募集は行われなかった。一般研究発表では、「移動・外出」、「観光地・観光バリアフリー」、「案内・誘導・情報バリアフリー」、「まちづくりとユニバーサルデザイン」、「交通システム」、「教育・人材育成」、「地域社会・生活支援」、「防災・防犯・安全」の 8 分野で研究発表会が行われた。

特定課題研究発表は、全国大会における研究発表会の議論の活性化と論文の質を向上させるため、2018 年度の全国大会で創設された仕組みである。本年の課題に対し、3 編の研究発表が行われた。

本学会では優れた研究発表に対し、大会優秀賞・大会奨励賞を授与してきた。本年より学生の発表に

対して、学生奨励賞を新設した。後日の審査の結果、大会優秀賞 1 編、大会奨励賞 3 編、学生奨励賞 1 編が選ばれた。

3. 公開シンポジウム・公開研究会・学会賞授与式

今回高知で開催されることから、将来起こると予測されている東南海地震や昨今の甚大な災害に鑑み、シンポジウムは「大災害に備える福祉のまちづくり」をテーマに 9 月 1 日（木曜日）に開催された。James D. Goltz Ph.D. 氏（京都大学防災研究所客員研究員）に「Persons with Access and Functional Needs: Lessons Learned in Recent Disasters. (近年の災害から学ぶ障害のある (AFN) 人のニーズ)」と題し、基調講演を頂いた。その後「ハードとソフトを連携させて災害に備える」をテーマにパネルディスカッションが行われ、140 名の方に聴講頂いた。

公開研究会は、13 の特別研究委員会のうち、5 委員会が開催した。

最終日の最後のセッションで第 13 回学会賞「市民活動賞」の授与式が行われ、NPO 法人 障害者自立応援センター YAH! DO みやざき（宮崎県）、ハッチホッチポッチミュージックフェスティバル実行委員会（横浜市）、一般社団法人 日本 UD 観光協会（札幌市）の 3 団体が受賞した。

来年度の第 26 回全国大会は、LRT が開業する栃木県宇都宮市で 9 月下旬～10 月上旬頃に開催を予定している。本学会では、より多くの方が参加できるように情報保障から一歩踏み出し、参加保障という考え方の下、準備を進めている。皆さんのご参加を心よりお待ちしております。